

調査報告

「主婦の就業に関する追跡調査」

- 2013年12月に行った「主婦の就業に関する1万人調査」の回答者に対して、その後の就業状況の変化について追跡調査を行った。
- 入職・離職・転職・就業条件等の変化があった人は、全体の約2割。入職の割合は年齢が若いほど高く、離職の割合は若年層と高年齢層で高い。転職は40代後半でもっとも高い。(p.3)
- 入職の主な理由は、募集関連以外では「経済的な事情から」「友人・知人に誘われたから」「子供が進学したため」。就業意向が低かった人でも、友人・知人に誘われると入職している場合がある。(p.5)
- 離職の主な理由は「妊娠・出産のため」「健康上の不安から」「介護・看護のため」。入職した人の仕事満足度は比較的高く、離職した人も、離職時の仕事満足度が低いとは言えない。(p.7)
- 転職の主な理由は、希望する仕事が見つかったからという場合が多い。転職前は仕事満足度が比較的低いが、転職後には改善している。(p.9)
- 条件変化の内容で多いのは「賃金」「勤務時間」。(p.11)

調査概要

	主婦の就業に関する追跡調査	(参考) 主婦の就業に関する1万人調査
調査目的	主婦の就業状況の変化について、実態と要因を明らかにすること	主婦の就業・求職実態（状況、行動、意義）、普段の情報接触実態を明らかにすること
調査方法	インターネット調査（マクロミル社モニター利用）	
調査期間	2015年3月10日（火） ～3月16日（月）	2013年12月17日（火） ～12月20日（金）
調査対象	1万人調査回答者のうち、当時から就業状況の変化（入職／離職／転職／条件変化）があった人 （本調査 n=1,283、事前調査 n=7,546） ※本レポート対象： 既婚・子供あり層 （本調査 n=866、事前調査 n=5,756）	18歳以上、下記在住の女性 北海道、新潟、東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、福岡 （n=10,240）

参考調査

主婦の就業に関する1万人調査【20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況】

http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20141024_212.html

主婦の就業に関する1万人調査【50～69歳女性の就業状況】

http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20150507_226.html

主婦の就業に関する1万人調査 データレポート

http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20150515_228.html

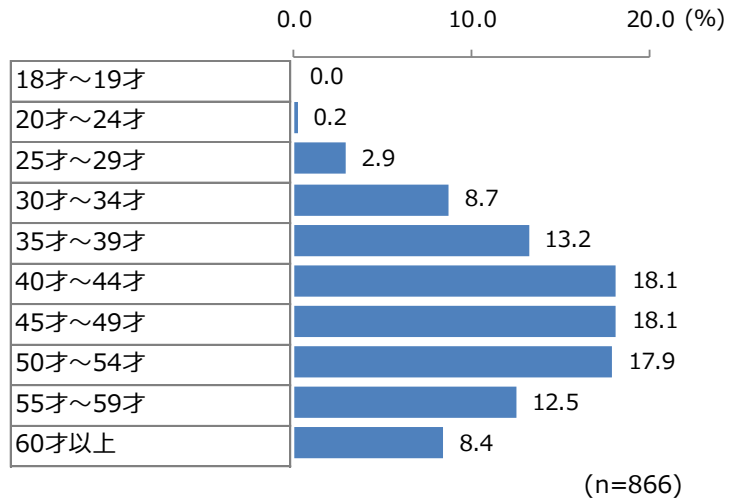
お問い合わせ先 <http://jbrc.recruitjobs.co.jp/jbrc/about.html>

1. 回答者プロフィール

本レポートの対象者は、1万人調査回答者のうち、当時から就業状況の変化（入職／離職／転職／条件変化）があった人で、既婚・子供あり層（n=866）である。

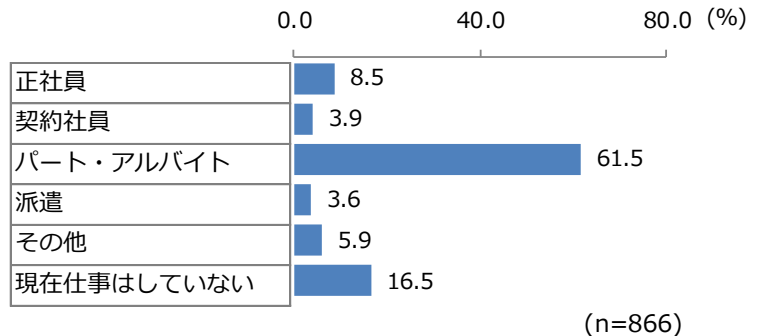
(1) 年齢

回答者の年齢分布は、右のグラフのとおり。40才～44才と45才～49才がそれぞれ18.1%、50才～54才が17.9%で、40代～50代前半が中心となっている。



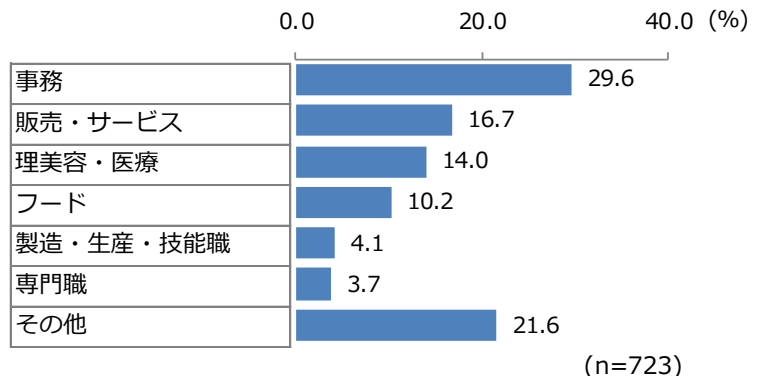
(2) 就業状況

回答者の就業状況は右のグラフのとおり。就業状況に変化があった人を対象としているため、「現在仕事はしていない」は16.5%にとどまる。それ以外は主婦の雇用形態に対応して、パート・アルバイトが61.5%で最も多く、正社員8.5%、契約社員3.9%、派遣3.6%などとなっている。



(3) 職種

回答者のうち、働いている人の職種は右のグラフのとおり。事務がもっとも多く29.6%、販売・サービスが16.7%、理美容・医療が14.0%などとなっている。

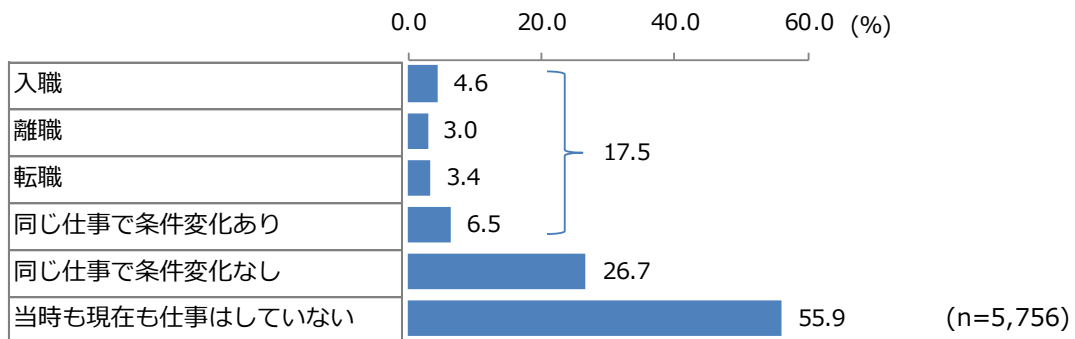


2. 変化の概要

(1) どのくらい変化したか

まず、1万人調査の回答者に、就業状況に変化があったかどうかを聞いた。

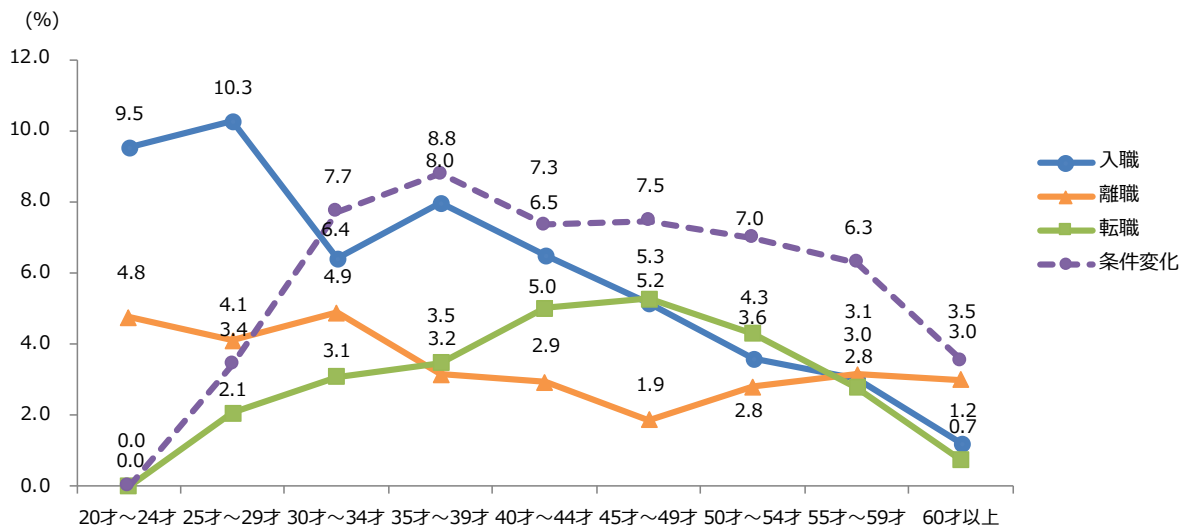
その結果、入職した（2013年12月当時は仕事をしていなかったが、現在は職に就いている）という人は回答者の4.6%、離職した（2013年12月当時は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない）3.0%、転職した（2013年12月当時と違う会社に転職した）3.4%、同じ仕事で変化あり（2013年12月当時と変わらず同じ仕事をしている・就業条件に変化あり）6.5%、同じ仕事で変化なし（2013年12月当時と変わらず同じ仕事をしている・就業条件に変化なし）26.7%、2013年12月当時も現在も仕事はしていないという人は55.9%であった。



(2) 年代ごとの変化率

上記のような変化は、どの年代で起こりやすいのだろうか。年代ごとに変化があった割合を見た。たとえば、25才～29才の回答者のうち、入職した人は10.3%となっている。

このように見ると、入職した人の割合は年齢が若い方が高いことがわかる。一方で離職の割合は40代後半を谷として若年層と高年齢層で高く、出産・育児や体力の問題などで離職しているのではないかと推測される。転職の割合は40代後半が5.3%でもっとも高く、条件変化の起こる割合は30代後半の8.8%がもっとも高くなっている。

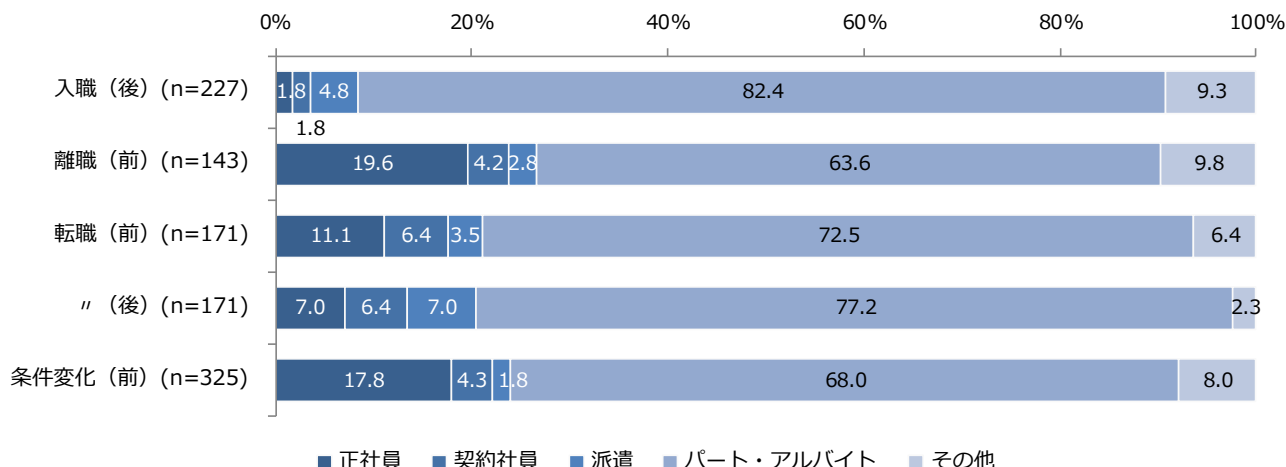


(n=5,756)

(4) 変化した人の雇用形態

就業状況に変化があった人の雇用形態の分布は、下のグラフのようにになっている。

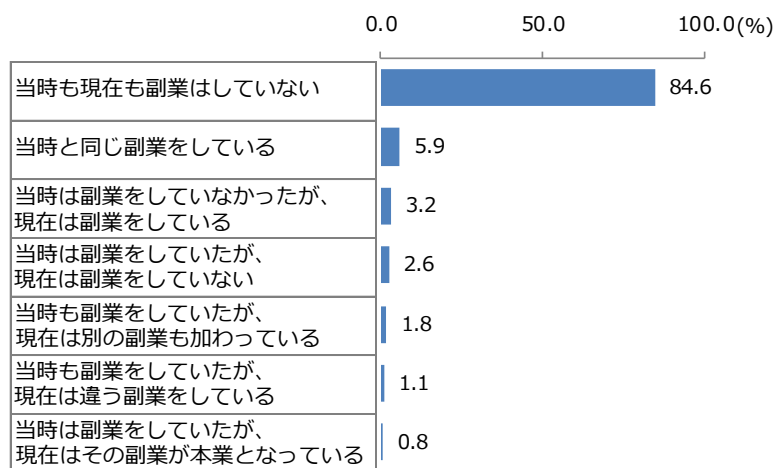
入職した人は8割以上がパート・アルバイトの仕事に就いている。離職した人は正社員であった割合が約2割と他の変化より高く、正社員からの離脱が起きていることがわかる。転職前後の雇用形態を見ると、正社員の割合は減り、パート・アルバイトや派遣の割合が増えている。条件変化があった人の雇用形態は、正社員が17.8%と比較的多くなっている。



<参考1> 副業の状況

事前調査において副業の状況について聞いたところ、下記のような結果となった。（集計対象は、2013年12月当時も現在も仕事をしていない人以外。）

「当時も現在も副業はしていない」という人が84.6%で、残りの15.4%は副業をしていた（している）。そのうち「当時と同じ副業をしている」人は5.9%である。「当時は副業をしていなかったが、現在は副業をしている」という人は3.2%、逆に「当時は副業をしていたが、現在は副業をしていない」という人は2.6%で、副業をやめた人よりも始めた人の方がやや多い。



(n=2,541)

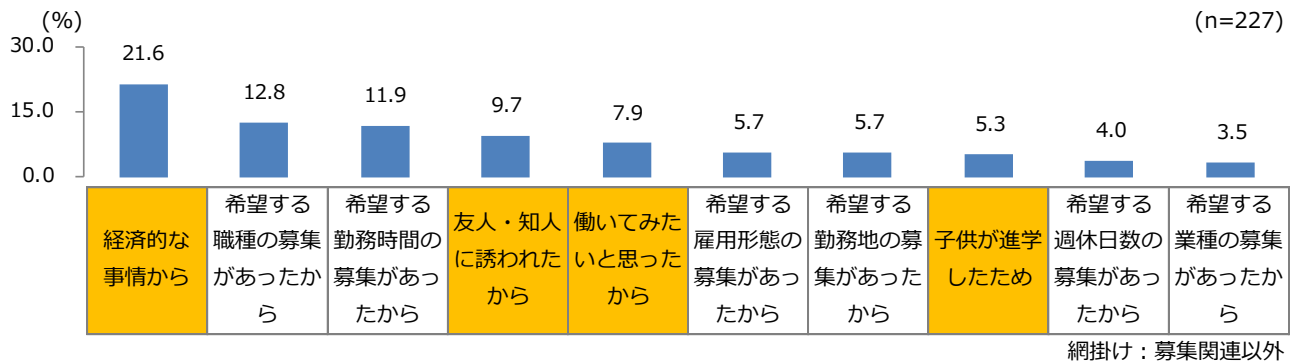
3. 入職の理由・きっかけ

(1) 入職の最大の理由・きっかけ

入職した人にその最大の理由・きっかけを聞いたところ、上位10件は下記のようになった。

もっとも多いのは「経済的な事情から」の21.6%で、募集関連以外では「友人・知人に誘われたから」9.7%、「働いてみたいと思ったから」7.9%、「子供が進学したため」5.3%などが挙げた。

希望する条件の仕事があったという理由では、「希望する職種の募集があったから」や「希望する勤務時間の募集があったから」が上位になっており、仕事内容や勤務時間が重視されていることがわかる。

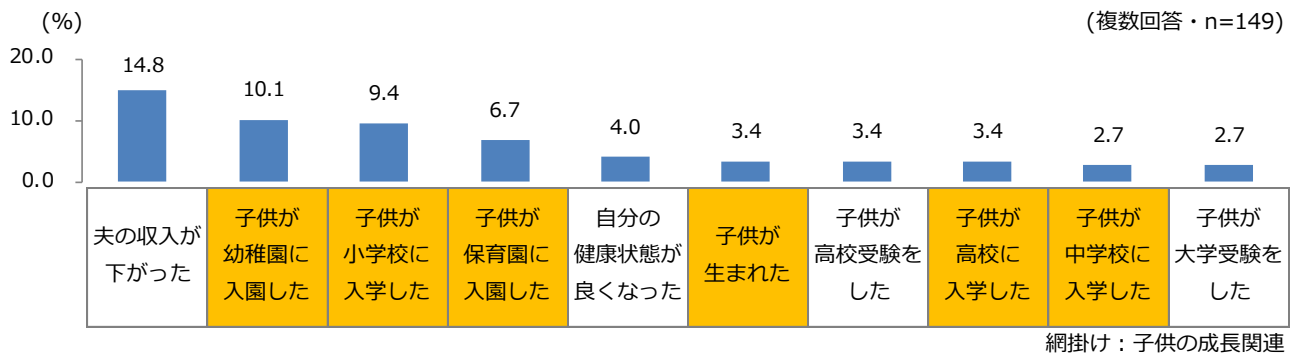


(2) 入職に影響したこと

入職した人のうち、家庭に何らかの変化があったという人に、何が入職に影響したかを聞いた。下のグラフはそのうちの上位10件である。

「子供が幼稚園に入園した」10.1%、「子供が小学校に入学した」9.4%など、子供の成長が影響していることがわかる。入職の最大の理由・きっかけとして子供の進学と回答した人はそれほど多くなかったが、入職の背景としては子供の成長があることがうかがえる。

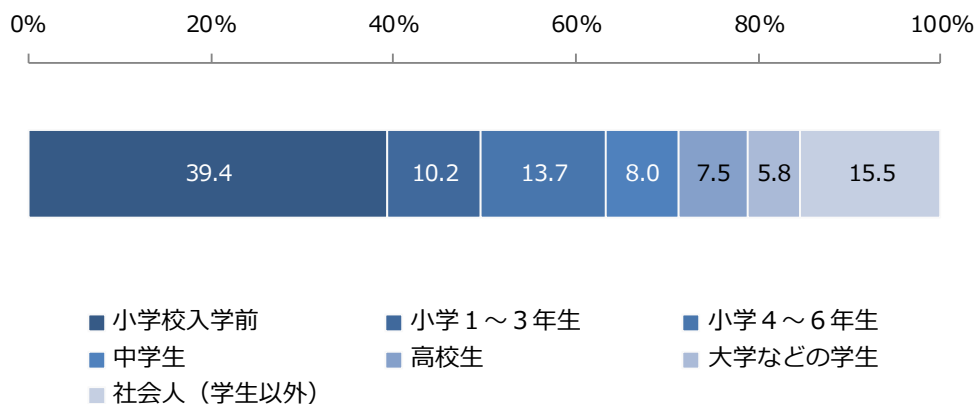
このほか「夫の収入が下がった」「自分の健康状態が良くなった」「子供が高校受験をした」「子供が大学受験をした」が上位になっている。



(3) 入職者の末子年齢

入職には子供の成長が影響すると考えられるため、入職者の末子年齢を見てみよう。

もっとも多いのは「小学校入学前」39.4%となっており、約4割の人は末子が小学校入学前の時点で入職していることがわかる。前ページで見たように、子供が保育園や幼稚園に入ったタイミングで入職していると考えられる。

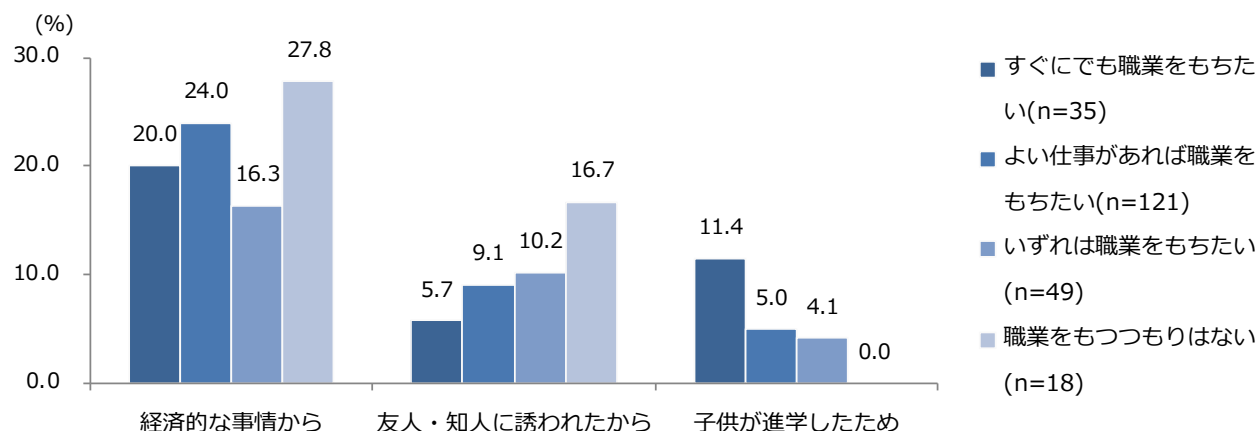


(n=226)

(4) 入職の最大の理由・きっかけ×就業意向

入職の最大の理由・きっかけを、1万人調査の際に聞いた就業意向の強さごとに見た。ただし一部は回答者数が少ないため、注意が必要である。

まず「経済的な事情から」入職した人について見ると、1万人調査での就業意向の強さにかかわらず入職していることがわかる。たとえ「職業をもつつもりはない」と思っていたとしても、経済的に必要となった場合は入職していることになる。次に「友人・知人に誘われたから」入職した人について見ると、就業意向が低かった人の方が割合が高い。就業意向が低い方が仕事内容などへのこだわりが少なく、誘われたときに入職しやすいのかもしれない。一方で「子供が進学したため」入職した人は、就業意向が高いほど多くなっている。働くことを心に決めていた人が、子供が進学するのを待って仕事を再開しているものと考えられる。



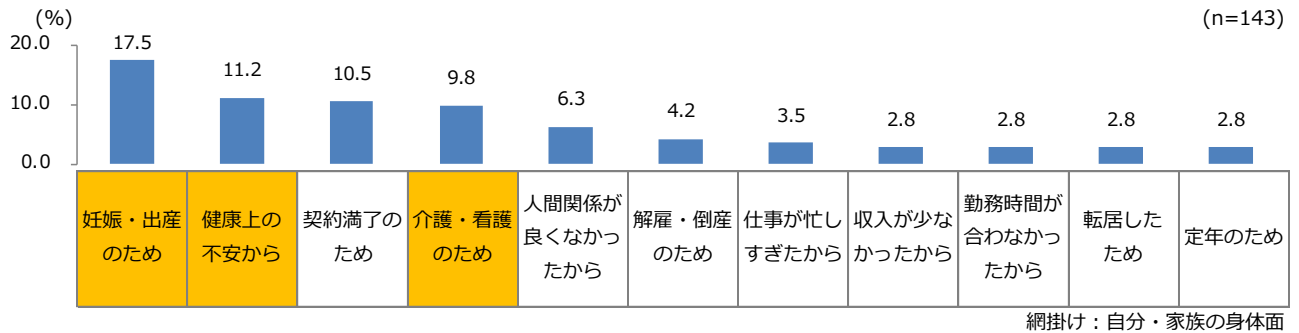
4. 離職の理由・きっかけ

(1) 離職の最大の理由・きっかけ

離職した人にその最大の理由・きっかけを聞いたところ、上位11件は下記のようになった。

「妊娠・出産のため」17.5%、「健康上の不安から」11.2%、「介護・看護のため」9.8%と、自分や家族の身体面での事情が大きな理由となっていることがわかる。年代で言うと、30代までは妊娠・出産が中心で、40代以降は健康上の不安や介護・看護が増えてくると推測される。

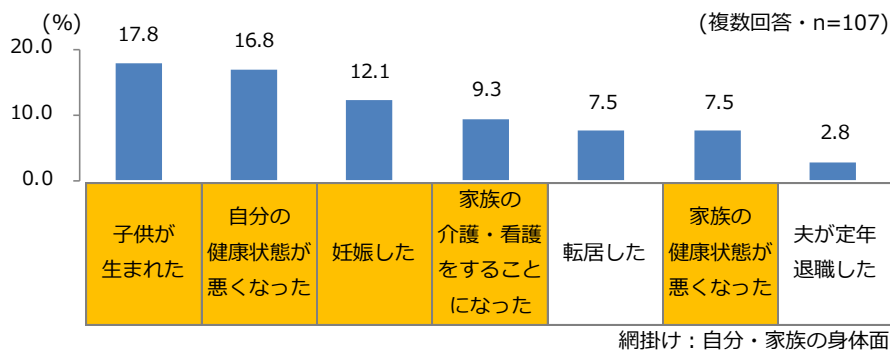
そのほかには、「契約満了のため」10.5%、「人間関係が悪くなったから」6.3%などが上位となっている。



(2) 離職に影響したこと

離職した人で、家庭に何らかの変化があったという人に、何が離職に影響したかを聞いた。下のグラフはそのうちの上位7件である。

「子供が生まれた」17.8%、「自分の健康状態が悪くなった」16.8%、「妊娠した」12.1%、「家族の介護・看護をすることになった」9.3%、「家族の健康状態が悪くなった」7.5%と、やはり自分や家族の身体面が影響しているケースが多い。このほか、「転居した」「夫が定年退職した」が上位に入っている。

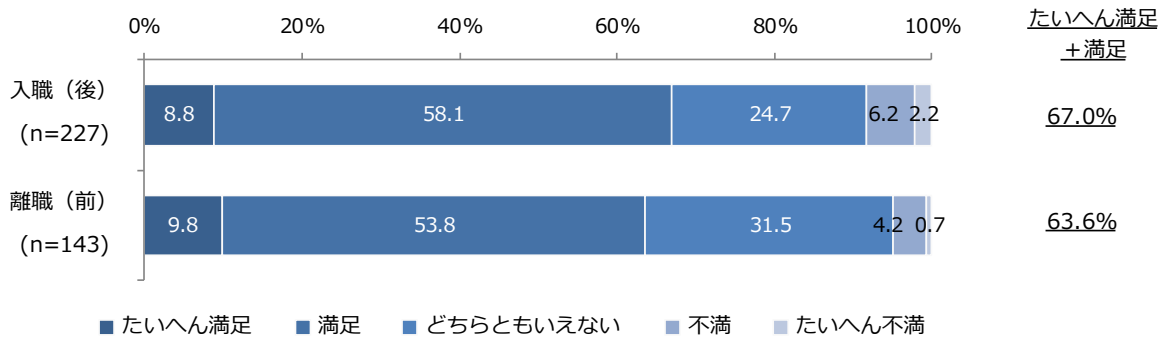


(3) 入職・離職と仕事満足度の変化

ここで入職・離職と、仕事に対する満足度について見てみよう。

入職後、仕事について総合的に「たいへん満足」「満足」と答えた人は合わせて67.0%となっている。これは後で見る転職後の仕事満足度（63.2%、p.10参照）と比べても高く、新しく入職した人の仕事満足度は比較的高いと言えるだろう。

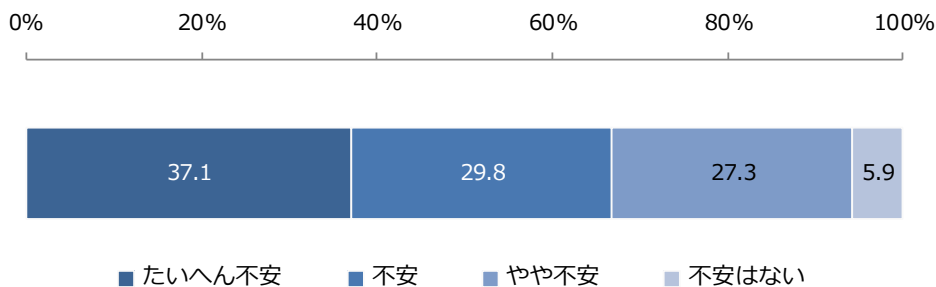
一方で、離職した人も離職前に仕事について63.6%が「たいへん満足」「満足」と答えており、満足度が低いとは言えない。最大の離職理由でも「妊娠・出産のため」などが多く、強い不満をもって離職している人は多くないものと考えられる。



<参考1> 入職者の就職への不安度

下のグラフは、入職した人が就職に向けて不安を感じていたかを示している（1万人調査時点の回答）。

「たいへん不安（37.1%）」「不安（29.8%）」を合わせると66.9%となり、大半の人が不安を感じていたことがわかる。多くの人は、育児との両立やブランク期間があることなどに不安を感じながらも自分に合った仕事を探し、働き始めているものと考えられる。



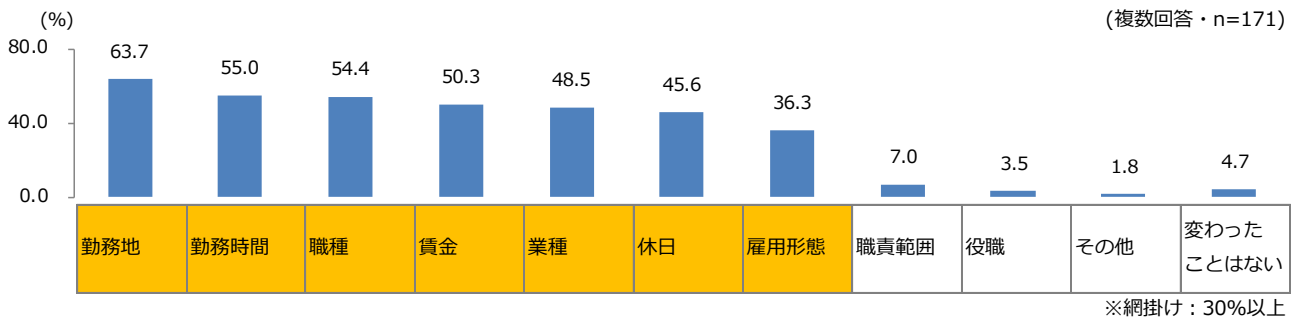
(n=205)

5. 転職による変化

(1) 変化したこと

転職した人に、転職前後でどのような点が変わったかを聞いた。

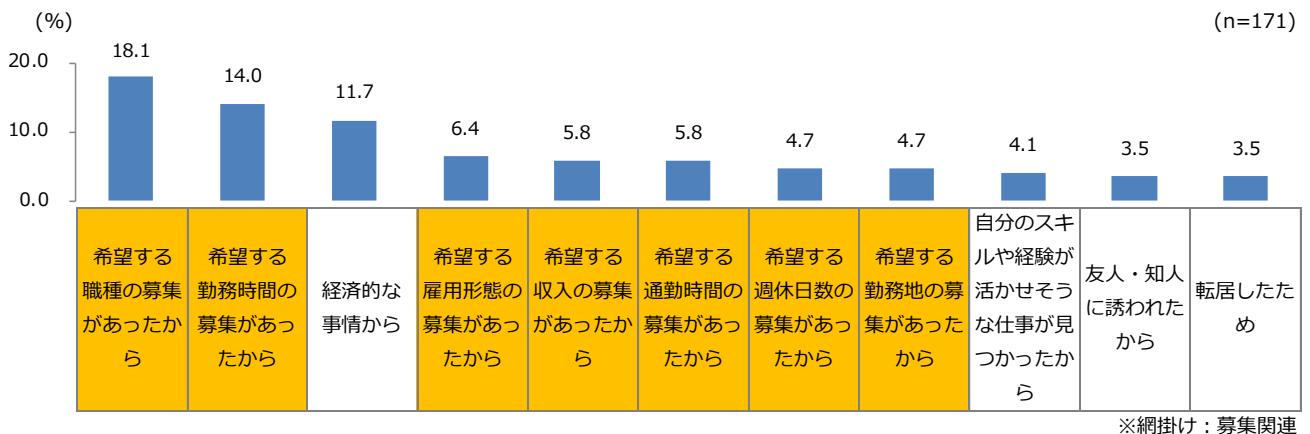
「勤務地」「勤務時間」「職種」「賃金」については半数以上の人、「業種」「休日」「雇用形態」については3割以上の人に変化したと回答している。転職した場合は、幅広く変化が起きていることがわかる。



(2) 転職の最大の理由・きっかけ

転職した人にその最大の理由・きっかけを聞いたところ、上位11件は下記のようになった。

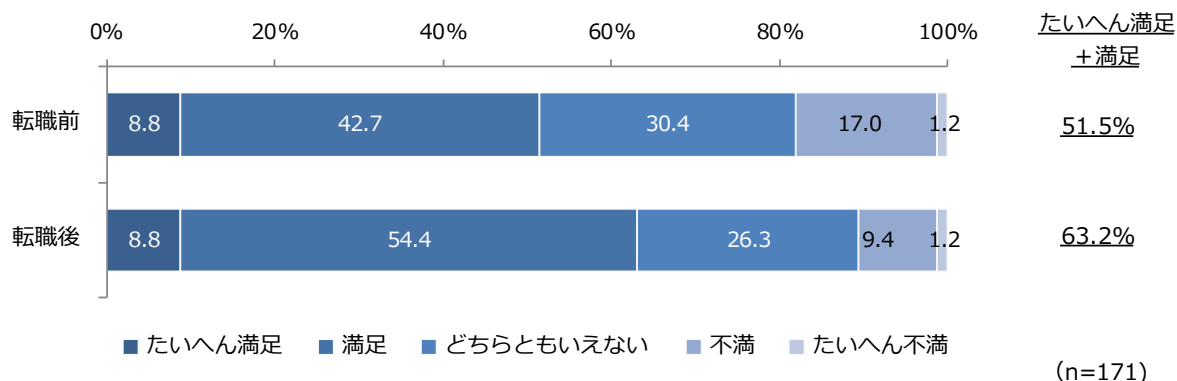
この結果を見ると、「希望する職種の募集があったから」18.1%、「希望する勤務時間の募集があったから」14.0%をはじめとして、希望する仕事が見つかったからという理由が多いことがわかる。新しく入职した人と比較すると、働くことはすでに決めており、より条件のよい仕事が見つかったから転職したという人が多いと考えられる。



(3) 転職による仕事満足度の変化

転職前後の仕事満足度を見てみよう。仕事について総合的に「たいへん満足」「満足」と答えた人は、転職前には51.5%と比較的低かったが、転職後にはそれが63.2%と上昇している。

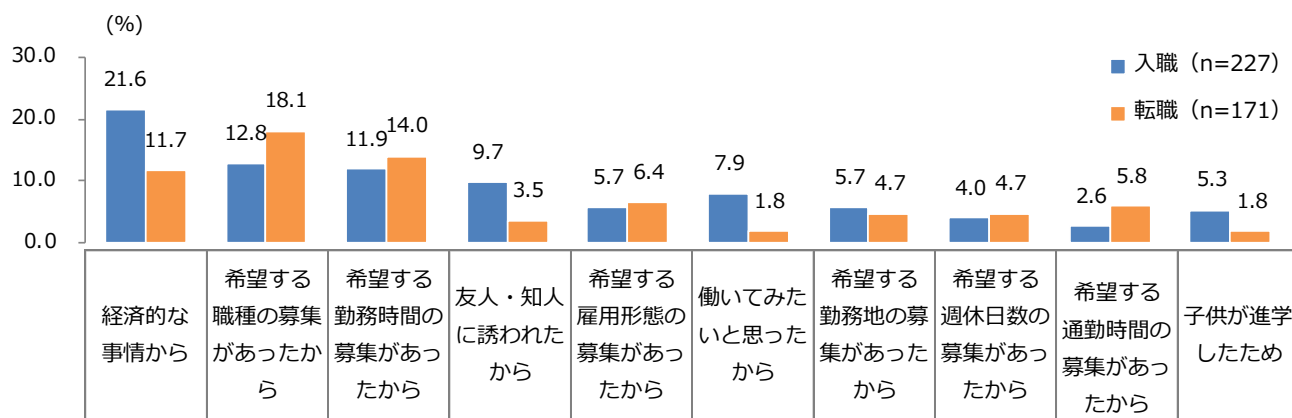
転職というとフルタイムの仕事をイメージしがちだが、大半がパート・アルバイトの仕事をしている主婦層においても、より満足できる仕事を求めて転職が行われていることが考えられる。



(4) 入職／転職の最大の理由・きっかけ

p.5で見た入職の最大の理由・きっかけと、p.9で見た転職の最大の理由・きっかけを比較してみよう。

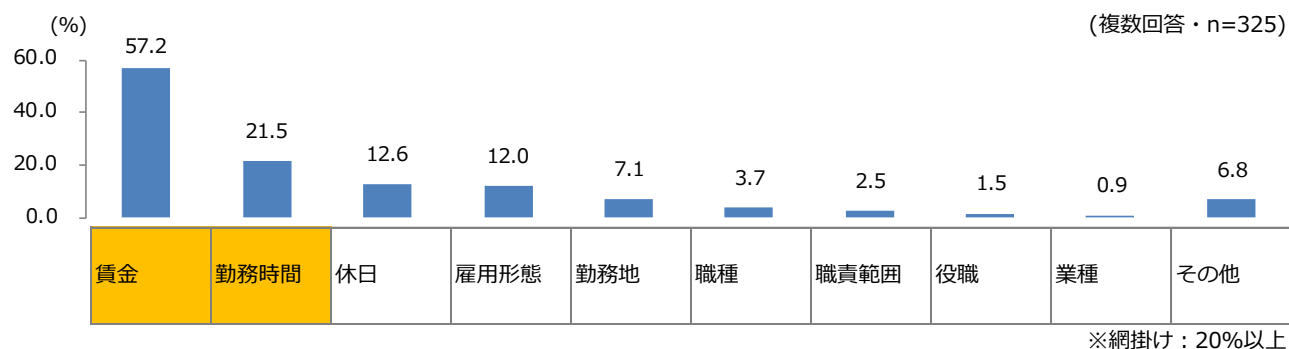
すでに見たように、入職の最大の理由・きっかけは、募集関連以外では「経済的な事情から」「友人・知人に誘われたから」「働いてみたいと思ったから」「子供が進学したため」などが挙がっており、これらは転職の場合よりも多くなっている。また、「希望する勤務地の募集があったから」も転職の場合より多くなっており、新しく入職する人は勤務地についてこだわりが強いものと考えられる。これに比べて転職した人の理由・きっかけは、希望する仕事が見つかったからという理由が多い。



6. 条件変化

(1) 変化したこと

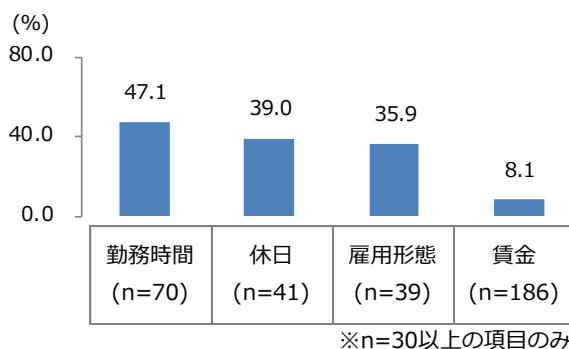
2013年12月当時と同じ仕事をしており、就業条件などに変化があった人の、変化した事柄は内容のとおり。「賃金」が変化したという人がもっとも多く57.2%で、「勤務時間」がそれに次いで21.5%、「休日」12.6%、「雇用形態」12.0%などとなっている。



(2) 変化を希望したか

就業条件などが変化した人に、それは自分自身の希望で変化したのか、会社からの申し入れで変化したのかを聞いた。下のグラフは、自分自身の希望で変化したという人の割合を示している。

自分自身の希望で変化した割合は、「勤務時間」が変わった人の47.1%、「休日」が変わった人の39.0%、「雇用形態」が変わった人の35.9%となっている。「賃金」については8.1%と低く、賃金の変化は会社主導となっていると考えられる。

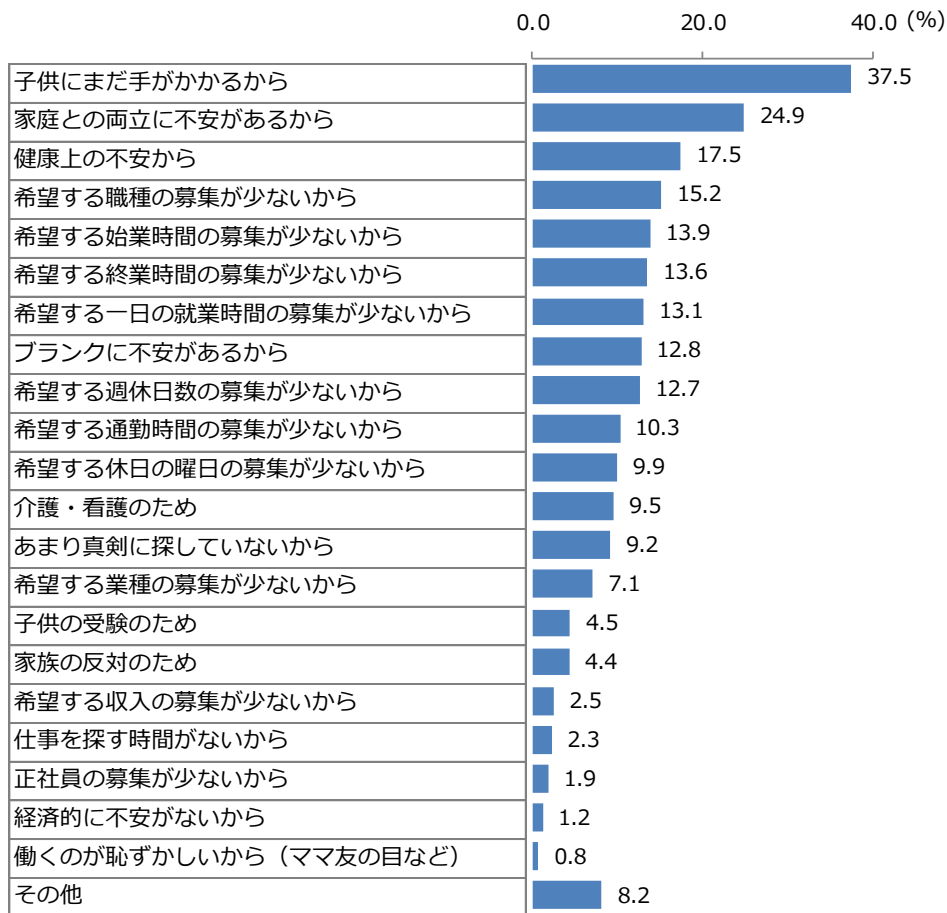


＜参考2＞ 働けなかった理由

事前調査において、「2013年12月当時も現在も仕事はしていない」人のうち「働きたかったが、働けなかった」と答えた人に、働けなかった理由を聞いた。

もっとも多いのは「子供にまだ手がかかるから」37.5%で、「家庭との両立に不安があるから」24.9%、「健康上の不安から」17.5%が続く。

仕事の条件としては「希望する職種の募集が少ないから」「希望する始業時間の募集が少ないから」「希望する終業時間の募集が少ないから」「希望する一日の就業時間の募集が少ないから」が上位に挙がっており、やはり職種と時間が重視されていることがわかる。



(複数回答・n=915)